

『社会を明るくする運動』 作文コンテスト 最優秀賞作品

「おはよう。」という一言だけで

私は、6年生になつてから、あいさつを意識して生活するようになりました。「おはよう」。「おやすみ」。「ただいま」。「おかえり」。そんな一言だけで、私の心は、一日の始まり、一日の終わりというものを感じることができます。私が、

と返ってきて、その一言だけで気持ちが
ツとする。ような、スッキリするような感覚に
なります。こんな少しのことでも、続けると
あいさつが習慣になつてきました。家族や友
だち、近所の方などあいさつのはんいを広げ
るとそれが日常生活の一部となつていきます。
そう考えると、私はあいさつだけで気持ちや
行動が変わつてくると思います。

と家族にあいさつをし、何気なくテレビをつ

「一つのニュースが目に入りました。大阪市西成区で、下校中の小学生7人がはねられる事件がありました。命に別状はありません。」

ませんでした。容疑者は、全てかいやになりました。人を殺そうとした罪を認めたそうです。

事でよかつたけど、正直、その犯人の本音を聞いた時、腹が立ちました。罪もない子ども

自分の怒りをおさえたいが、他のない7人の命をうばおうとするなんて、すごくやっかい、それと同時に心が苦い

ような感じがしました。この作文を書きながらどのようにしたら、このような人たちに寄

気になつて夕方レポートを使って調べてみました。そこで、私は、更生保護女性会員を初めて取りました。更生保護女性会員は青年

年健全育成の活動や子育て支援などたくさん
の活動をしていて、なんと全国で約13万人の

つと増えたら、なやんでいたり、困つていたりする人に寄りそなうことができるのではなかかと思いました。そして、一回罪を犯した人

私は、前に世界の学校をしようかいして本を読んだことがありました。日本の学校とちがつていることがたくさんあつてすごくおもしろかつたので、図書館でにたよな本をさがしていました。その時にパッと目に入つたのがこの本です。いろいろな国のことが知れ、そだなと思つて、この本を選びました。読んでみると、私の知らないことがたくさんあつておもしろかつたです。

この本は、世界の伝とう的な食事や文化がたくさんしようかいしてあります。その中でたくさんありました。特に印しょうに残つたことが4つありました。

一つ目は、ペットのことです。インドでは、ネズミは頭がよくて清けつだと考えられていて、せいなる動物としてたくさんの人とかわ



でも、心を入れかえてくれるかも知れないと
思っています。私は、子どもだから関係ないんじゃなくて、
子どもだからこそ、何ができるかを考えて過
ごしたいと思っていています。私は、やつぱりあ
いさつを続けます。「おはよう。」「おやすみ。」
「ただいま。」「おかえり。」その一言で何かが
変わると思います。あいさつを続けることや
あいさつでつながっていくことが、罪を犯し
てしまいそうになる人の心をきっと入れかえ
てくれると信じたいです。私は、しようと
小学校の先生になりたいと思っています。思
いやりのある子やあいさつを大切にしてくれ
る子が増えるようにがんばりたいです。そし
て、更生保護女性会員というボランティアに
参加する人が増えれば、だれもが安心して暮
らせる社会が、今よりもっと広がっていく
と思います。そんな人が増えることを願って、
今、私に何ができるかを考えながら、これか
らも生きていきたいと思います。

ほかの学年の子のことも知っているけど、5万5千人もいたら同級生も覚える自信がないなと思いました。

日本で暮らしているとそれがふつうだと思つていることが、ほかの国ではしつれいになつたりすることもあることも分かりました。この本を読んで、日本と外国でいろんなちがいがあることがよく分かりました。これからは、そのちがいをみとめ合うことがすごく大切だと思いました。日本のことも他の国のこと、もつと知りたくなりました。

変化を受け止めるには

6年

私は、日常の変化があまり好きではありません。主人公ピーターに起こつた変化にどう対応していくか帯を読んで気になつたので、この本を選びました。

ハムスターはペットとしてかわっていてかわいいと思います。でも、ネズミはドブや屋根うらのきたないところにいて、ふけつなイメジがあります。だから、インドでペットとしてかわるのは不思議だと思いました。

2つ目は、登校の仕方です。コロンビアのロスピノでは、学校に行くために川の深い谷をケーブルワイヤーでわたらなければならなかつたり、中国のチャンジワンでは、急ながけに木のはしごだけをかけてよじ登らなければならなかつたりすることです。私の家から学校まで2キロぐらい歩かないといけないのつかれるからいやだなと思う日があります。でも、ロスピノやチャンジワンにくらべたら楽な方だし、整びされた道で通えるのもんくを言つたらだめだなと思いました。

3つ目は、コンピュータ付きのせい服です。チップが付いていて、学校につくとスキヤツされて登校したことが分かるそうです。何うとうと思つたのかをお母さんに聞いてみると、「ブラジルはち安が悪いからぼうはんのためじやない?」と言つていました。本当はどういう理由なのかを知りたいと思いました。

4つ目は、世界一大きな学校です。インドのラクノーには、生徒の数が5万5千人、教室は千以上というすごく大きな学校があるそうです。私の学校は、生徒数が少ないので、

「私もあの日をやり直したい。」
ピーターは、今までかくしていったことを全
部しゃべったことで引っこしを受け入れて、全
前に進んでいこうと思つたのではないかと思
います。ここで、トミーの気持ちが分かつ
いんだと思います。私は、もう先生には会え
ないけど、この本と経験を活かして、相手の
ことを考えて行動しようと思いました。
私は、先生が帰国したときは、あまり家族
や友だちに相談しませんでした。ピーターは、
トミーの引っこしをトミーと話して受け止め
ました。この本を読んだことで、人と話し合
つた方が、おたがいにすつきりすると気づき
ました。考え方より先に感情が表情や行動に出
てしまい、相手を傷つけたり、心配させたり
したくないのです。どんなに自分にとつて大き
な変化が起きても、自分でかかえこまことに、
周りの人に相談できるのだと改めて分かりま
した。このことに気づけた私は、ピーターの
ように変化を受け止めることができると思
います。

「ピーターはどうやって、変化を受け止めて、前を向いて進んで行けたのだろう。」「私もピーターのように変化を受け止められるだろうか。」

そんなことがとても気になってしまい、早く読みたくてうずうずしました。

ピーターの一番の変化は親友トミーの引っ越しだと思います。そして、私がこの本を読んで一番印象に残った所でもあります。ピーターはトミーと「生き物発見ノート」を書いたり、生き物をいっしょに探したりしていました。ピーターの日常にトミーがいるのは、当たり前に前でした。私も保育園のころから習っている英語の先生が私の日常にいて、私に英語を教えてくれているのは当たり前に前でした。その日常は、ずっと続くものだと思つていました。ピーターがトミーの引っ越しを知つたときのよう、私も先生がオーストラリアに帰国するのを知つたとき、いろいろな感情でぐちやぐちになりました。突然のことびっくりしたり、もう会えなくなってしまうことに悲しくなつたりしました。ピーターは、先生の前で泣いてしまい、笑顔で別れることが